Funehiki High School News　vol.112

◆盛況に終えた鵬翼祭

11 月 5･6 日、3 年に 1 度の公開文化祭「鵬翼祭（ほうよくさい）」が行われました。6 日の一般公開日はもちろん、5 日に行われたクラスや学年、有志バンドによるステージ発表にも、多くの方々にご来場いただきました。ありがとうございました。ＰＴＡ役員をはじめ、保護者、デュアル実習協力企業、船引町商工会や船引公民館からのご支援により、盛況のうちに終えることができました。改めて感謝申し上げます。今後とも本校の運営にご支援、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、各部門の受賞者は次のとおりです。

〈クラス企画部門優勝〉 3 年 3 組「バイオハザード迷路」（写真右上）
〈クラス旗部門優勝〉 3 年 1 組
〈ポスターデザイン最優秀賞〉 堀越さやかさん（2 年、船引南中出身）

◀バイオハザード迷路

◀保健委員会ＡＥＤ体験

◀皆で校歌を歌った閉祭式

●実行委員長　遠藤由樹さん（3 年、川内中出身）

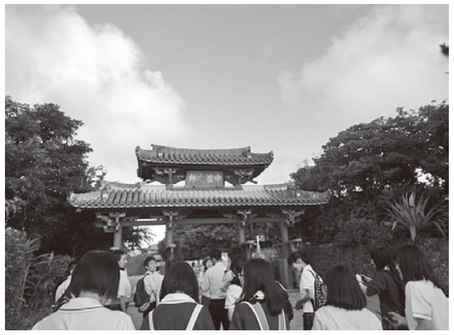
今回の文化祭では、私たち生徒一人一人が仲間と協力し、準備から本番までの全てが心に残る思い出となりました。3 年生は進路活動や勉強などと並行して準備を行わなければならず、文化祭直前は特に大変な時期でした。しかし、そのような時にお互いが助け合ったからこそ、最高の文化祭を開催できたのだと思います。クラス・部活動の発表や展示もすばらしいものばかりで、まさに船引高校の合い言葉である「チーム船引」を実感できる文化祭となりました。実行委員長として文化祭開催に携わることができ、とても貴重な経験をさせていただきました。来校いただきましたお客様、さまざまな面でご理解、ご協力いただきました地域の皆様、ありがとうございました。

◆芸術鑑賞教室

11 月 4 日、体育館で芸術鑑賞教室を開催し、奈良県明日香村を活動拠点とする和太鼓集団「倭（やまと）－YAMATO」の演奏を観賞しました。エネルギーあふれる和太鼓演奏で、一打ごとに振動が体中に伝わりました。生徒全員が衝撃を受け、感動しっぱなしの 90 分となりました。

◆修学旅行で沖縄へ

10 月 19 日から 22 日までの 4 日間、2 年生が修学旅行で沖縄へ行って来ました。青い海と空を楽しみながら、世界遺産である首里城の見学や、ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念館での平和学習を通して、日本の文化や歴史について改めて学び、実りある修学旅行となりました。



●吉田 巧 さん（2 年、大越中出身）

修学旅行で訪れた沖縄で、私は多くのものを見て、聞いて、知ることができました。特に印象深いのは、伊江島での民泊です。温厚篤実な島の人と触れ合いながら、山や海などの自然を体で感じることができ、良い思い出になりました。

福島県立船引高等学校　Tel…0247-82-1511　Fax…0247-82-5233
HP…http://www.funehiki-h.fks.ed.jp　mail…school@funehiki-h.fks.ed.jp

アメリカから日本へ、冬を懐かしむ

David Norcross
デイビッド・ノアクロスさん
（アメリカ合衆国
イリノイ州出身）

海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	42

日本での生活が 6 カ月を過ぎて、これから寒い季節を迎えようとしている今、僕の心にはある思いが浮かんできます。それは「私は冬が大好き、雪が大好き」ということです。

アメリカのイリノイ州で育った僕にとっては、雪は全く不慣れなものではありません。僕が住んでいた町には、「冬は 1 年の 10 カ月間続く」という言葉があります。それは決して正確ではないのですが、その言葉のとおりに感じることがよくありました。

だんだん寒くなって、その寒さがずっと続いていても、僕はその寒さをとても楽しんでいました。おそらくその理由の 1 つは、広大な農地全面が積雪で高く覆いつくされた光景を見て、巨大でダイナミックな自然の営みを実感したことだと思います。

冬という季節はいつも、僕をとてもノスタルジックな気持ちにさせます。

自分が成長していく中で、冬に体験したことを次々と思い出します。家族と一緒に雪遊びをしたこと。クリスマスに、イエス様の誕生をお祝いするために、家に飾りつけをしたこと。父の特別な秘密のレシピによる「チェックス・ミックス（チーズ・ガーリック・塩を混ぜ合わせた伝統的なアメリカのクラッカー）」を食べたこと。年を重ねていくと、友達とスノーボードに行ったり、巨大な「イグルー（雪の家）」を作ったりと、もっといろいろなことをするようになりました。

今は、そういったことが、心温まる思い出になっています。毎年家族や友達と一緒に過ごす冬は、僕にとってとても特別な季節なのです。

今年は、家族が住むアメリカの町とは違う場所で冬の季節を過ごす、初めての年になります。家族や家族の習慣を懐かしく思い出すでしょうが、今年の冬がさびしいものになるとは思っていません。確かに日本は、いろいろな点でアメリカと違います。でも、これから冬を迎えるところですが、田村市での生活は、僕に教えてくれています。「故郷の冬の光景から感じたような自然のダイナミックな営みに、ここでも十分に触れることができるだろう」と。

僕が育ったイリノイ州の町は、農地に囲まれた小さな町です。農産物は田村市と同じではありません。土地も広く平らなので、山々に囲まれた田村市とは違います。

でも、どのようなところなのかは問題ではありません。農地に囲まれたイリノイ州の小さな町でも、ここ田村市でも、心で感じることができる同じ情感があります。田村市で生活していて、身近さを感じる温かい気持ち、誠実な生活を心がけている気持ちなどに触れるたび、僕は嬉しくなります。それは、東京のような巨大で多忙な都市にはないものです。

東京のような大都会も素敵で、そこで過ごす時間は確かに楽しいものです。それに対し、雪の毛布に覆われた広大な景色を見る時、僕は、望郷の思いとともに、平和と穏やかさを強く感じます。

これから田村市にも本格的な冬がやってきます。和やかな心の交流を楽しむことができる地方の古里社会で冬を迎えること、白い毛布で覆われる静かな田園地帯の安心感を体験することは、私をとても幸せにしてくれるでしょう。